



春日井ロータリークラブ
2013~2014 年度 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

ロータリアンとして世界・地域に奉仕しよう

市民がウォーキングや散歩の折りに、それぞれの故郷を思い出し、自然や緑を大切にする心の糧となるよう、全国ロータリークラブの協力により、各地の県木・市木60余本を植樹しました。
(春日井ロータリークラブ創立25周年記念事業 1994年4月)



(仮称)総合保健センター
※イメージ図



落合公園体育館

会 長：屋嘉比良夫
副 会 長：大橋 完一
副 会 長：太田 弘道
幹 事：加藤久仁明
会報委員長：近藤 太門

例 会 日：金曜日 12:30~13:30
例 会 場：ホテルプラザ勝川
事 務 局：春日井市鳥居松5-45
T E L：(0568)81-8498
F A X：(0568)82-0265
E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

ロータリーの森の桜

本日のプログラム

- ・点 鐘 伊藤 純君
- ・ROTARY SONG 「我等の生業」 屋嘉比良夫君
- ・今月の歌 「ふじの山」
- ・ビジター紹介 屋嘉比良夫君
- ・食事・歓談
- ・委員会報告
- ・会長挨拶 屋嘉比良夫君
- ・卓 話 青山 博徳君 岡嶋 良樹君
- ・幹事報告 加藤久仁明君
- ・点 鐘 屋嘉比良夫君
- 今月の歌

ふじの山
あたまを雲の上に出し
四方の山を見おろして
かみなりさまを下にきく
ふじは日本一の山

先週の記録

幹事報告 幹事 加藤久仁明君
秋の花まちづくりコンクール二次審査
：9月17日(火) 9:00~ 春日井市役所
出席義務者：会長 屋嘉比良夫君
第54回春日井市菊花大会表彰式
：11月10日(日) 11:00~
春日井市役所 1F 市民ホール
出席義務者：会長 屋嘉比良夫君

例会変更のお知らせ

羽 島	9月17日(火) 9月19日(木) 12:30
R C	合同例会の為フォーラムホテル

2013年8月30日(金)第2151回(8月第4例会)

名古屋名北 R C	9月11日(水) 9月11日(水) IDMの為 アパホテル
名古屋守山 R C	9月11日(水) 9月11日(水) 夜間例会の為 未定

出席報告 委員長 伊藤 一裕君

会員 54名	欠席 17名	出席率 74.3%
先々週の修正出席	欠席 1名	出席率 98.1%

ニコボックス報告 委員長 成瀬 浩康君

誕生日の祝福ありがとうございます。おかげで69歳になりました。 屋嘉比良夫君
誕生日の卓話をさせていただきます。名畑 豊君
妻への祝福に感謝します。 山田 治君
アテンダンス表彰を受ける喜びで。

加藤久仁明君
貴田 永克君
加藤 茂君
無事増築が完成しました。税関調査も終わりました。
宅間 秀順君
来る8月31日~9月7日、東京上野・東京都美術館にて日本山岳写真協会展が開催されます。
私の写真も全倍で一点展示される事となりました。
北 健司君
久し振りです。 山口 由起君
夏バテしない丈夫な身体に感謝して。
青山 博徳君
祝福を受けられる皆様おめでとうございます。
お二人の卓話楽しみにしています。
伊藤 一裕君 伊藤 正之君 小川 長君
大橋 完一君 太田 弘道君 大畑 一久君

ロータリーを考える月間

例 会	9月6日(金)	9月13日(金)	9月20日(金)	9月30日(月)
予 定	クラブ協議会 13:30 ガバナー補佐訪問 ガバナー補佐丹羽司一君	卓話 自己紹介 山田 倫章君 卓話 宅間秀順君	祝福 卓話 伊藤 純君 卓話 蓮野 美廣君	9月27日例会変更 ガバナー公式訪問 キャスルプラザ

ホームページ：<http://www.kasugai-rc.jp>

E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

岡田 義邦君	岡嶋 良樹君	亀谷 鉦一君
風岡 保広君	河村 哲也君	加藤 宗生君
志水ひろみ君	清水 勲君	峠 テル子君
林 憲正君	蓮野 美廣君	古屋 義夫君
山田 倫章君	和田 了司君	

ご協力ありがとうございます。 成瀬 浩康君

卓話

名畑 豊君

本日は私の誕生祝いをいただきありがとうございます。私が生まれたのは、昭和22年です。昭和22年生まれから25年生まれが団塊の世代といわれています。現在、日本では750万に近く人口となっています。団塊の世代の言葉の生みの親は堺屋太一さんです。堺屋さんの小説のタイトルが「団塊の世代」でした。

特に、昭和22年生まれは、250万人いると中学生のころから聞いていました。人口が多いので、それだけ競争が厳しいと言われ続けていました。今回、卓話をされる、誕生日が同じ社本さんは、21年生まれで、22年生まれと比較しますと、半分くらいの人口だと思います。私の小学生のクラスは63人でした。現在の倍近い学童が、同じ大きさの教室にいたことになります。でも当時は教室の人数が多いのは当たり前で、気にもとめていませんでした。

21年生まれは、22年生まれと同様に苦労をしていると言われていました。大学受験で浪人すると、22年生まれが控えていますから、競争率が高くなることです。また、22年生まれから教育の内容も変わってきました。私は理系でしたので、すぐにその変化が分かりました。特に、数学は大きく変わりました。21年生まれは代数幾何学がありました。22年生まれは代数幾何学を学習していません。新しく、複素数とかベクトルが数学に入って来ました。英語は、英国式から米国式に変わりました。英国式は、Have you a pen?でしたが、米国式は Do you have a pen?になります。発音も、当然、米国式変わりました。

人口が多い団塊の世代ですが、総理大臣は一人も出ていません。団塊の世代をとおりこして、もっと年代が低い、安部総理大臣が誕生しました。団塊の世代は、日本の高度成長を引っ張った世代でした。団塊の世代は、物欲が大きく、たとえば、3C(クーラー、自動車、カラーテレビ)は完全に団塊の世代をターゲットにしていました。このターゲットは団塊ジュニアが主流になるまで続いたのではないのでしょうか。政治より、物欲が大きかったために政治家が少ないように私は思います。団塊ジュニアは5年間くらい、180万人の人口でした。現在は出生数が110万人くらいですから、日本も高齢化し、人口が減少するのも当然と

言えるでしょう。

最近、団塊の世代と団塊ジュニアの中間の人たちを描いた小説が人気を集めています。その小説名は、最初の本は、「オレたちバブル入組」と2冊目は「オレたち花のバブル組」です。この小説はテレビドラマになり、20%を超える視聴率を誇っています。テレビのタイトル名は「半沢直樹」で、小説の主人公の名前です。作者は、池井戸潤です。

私は勝手に、バブル時代の前後の人たちを、「バブル世代」と呼んでいます。団塊の世代と団塊ジュニアの中間の世代になります。なかなかくたばらない、団塊世代に従い、下からは、やはり人口が多い団塊ジュニアから追い上げられている世代と、小説の作者は定義しています。このテレビドラマのサブタイトルみたいな言葉があります。「やられたら、倍返し！」です。かなりインパクトのある言葉で、今年の流行語大賞になるのではと、もう言われています。やられたら、倍返しどころか、やられっぱなしの最近の風潮ですから、(国際関係も?)この言葉はかなり衝撃的なものです。人間の本性を表しているのではないかと思います。主人公の設定がお堅い??銀行マンの行動の倍返し(利息を考えるとやはり妥当なのでしょうか?)なので興味があります。小説の内容は、銀行マンが企業の脱税、粉飾決算をあばくストーリーです。この小説を読むと、脱税、粉飾決算の手口が理解できます。また、それはとても巧妙にできているもので、脱税、粉飾決算の手引書みたいなものです。銀行マンが必死になって、脱税、粉飾決算を解明するのですから、是非、勉強?のために一読をお勧めいたします。



卓話

社本 太郎君

誕生日の祝福いただきましてありがとうございます。
ました。

私にとって一番思い出深い誕生日は12年前、春日井ロータリーメンバーと京都へ舞妓さんの写真を撮りに行ったおりのものです。京都の花街ではお茶屋の支払いはその店の常連と認められた人が代表して払い、仲間で行った場合にはその常連の人が後で請求書が来たのちに集金するという仕組みになっています。

実は12年前のロータリーの会が私が会計をもった初めての日でした。

花街の会計は最初に会費を決めて行う場合がありますが、その場合請求がオーバーしたらその常連の客が負担しなくてはなりません。おおよそ料金は決まっていますが祝儀とかタクシー代、料理代すべて込みで明細は書いてませんので実際にはよくわからないのが正直なところでそれに目くら立てる人は花街では遊べません。

花街のシステムは京都には祇園、上七軒、先斗町、祇園東、宮川町と5つあるのですがたぶんほとんど同じシステムで運営されていると思います。

一つの花街が一つの会社のような感じで共存、分業システムで成り立っています。

たとえば最初に友人にあるお茶屋を紹介されると一生そのお茶屋との付き合いで浮気は許されません。お茶屋というのはいわば場所貸し業で料理は仕出して芸舞妓は屋形という舞妓をかかえて養成するところからの派遣という形でお座敷が成り立ちます。もちろん、お茶屋と屋形を兼ねたところもありますが、最近では舞妓を抱えずお茶屋のみのところもけっこうあるようです。

面白いのは舞妓なりたての子もベテランの芸妓も売れっ子もそうでない子もまったく料金が同じということです。芸舞妓、お茶屋の間でまったく価格競争がないのが長く続いた理由かもしれません。それと分業が徹底されていて自分のところですべて抱えないのが大阪の花街との大きな違いです。東京の花街は芸妓の前の修行中は半玉といって文字通り料金も半分ですが、京都の場合舞妓は江戸時代の商家の娘の姿だと言われていますが縫い上げた振袖にだらりの帯、おこぼという高い下駄という姿で付加価値をつけて同じ料金をとるところか京都にはかせないものになっているのは京都の人は本当に商売上手だと思います。分業により運営コストを下げ、価格競争をせず共存共栄で、おどりの会などいろいろなイベントを企画してお客を呼び続けるのは本当に見事です。京都の企業に長寿企業が多いのもそんなシステムを作り上げているのも原因かと思います。

14年ほど前に初めて京都の友人の紹介で花街のひとつ宮川町に行きました。

そこで初めて出会った舞妓さんが実は中学3年間を商社マンだった親と海外で過ごした小桃さんでした。海外だからこそ日本の伝統に興味があった小桃さんは当時京都の花街で初めてパソコンのホームページ作りを勉強して自らのホームページを立ち上げた小糸さんのホームページを見つけました。数年のやりとりの後、小糸さんの反対にもかかわらず親を説得して当時屋形を立ち上げたばかりの小糸さんのところへ一週間の体験住み込みをした小桃さんは結局小糸さんの屋形、花傳さんより舞妓デビューすることになりました。

当初ホームページを立ち上げたりインターネットを通じて舞妓デビューしたということは花街の方たちから相当の批判や反発があったそうですが、今ではあたりまえのことになっていて20年ほど前には京都全部で30人近くに減っていた舞妓の数が最近ではマスコミに取り上げられることもあって100人近くに増えています。

春日井市出身で宮川町で舞妓をしている美恵菜さんもインターネットを通じてデビューされた一人です。



卓話 名畑 豊君



卓話 社本 太郎君